

考古かながわ 第50号

岩手県宮古市への派遣

土屋 了介

2011年3月11日、14時46分頃に三陸沖を震源地とする地震があった。宮古市では震度5弱～強であった。マグニチュード9.0の非常に強い地震は巨大な津波を発生させた。最大波は8.5m以上あり、3月11日15時26分に宮古市へ到達し、田老地区では37.9m、重茂半島の姉吉では40.5mまで遡上した。最大波のみではなく、数度の津波があったという。

市内の水・樋門は111箇所が閉鎖され、避難指示が同日14時49分に発令された。しかし、津波は防波堤を乗り越えて市街地へ押し寄せ、全壊家屋5,968棟、大規模半壊1,335棟、半壊1,174棟、一部損壊611棟の被害を齎したのみならず、死者517人、行方不明者94人の甚大な人的被害が生じた。2012年7月6日の状況では3,883人が仮設住宅での生活を余儀なくされている。JR山田線は線路が流され、復旧の目処も立っていない。

宮古市内には、明治19年と昭和8年の大津波を記録した記念碑が多く残されている。この記念碑には「此处より下に家を建てるな」と刻まれている。歴史を忘れず、教えを守った姉吉地区では、この度の大津波は集落まで到達しなかった。

現在、宮古市では復興へ向けて公営住宅の整備や個別再建支援の実施が行われている。高台移転も多く、一般的には遺跡と呼ばれる埋蔵文化財包蔵地内での計画も少なくない。

2013年度は4月から8月末までに緊急発掘調査が14件11,206㎡実施され、そのうち11件10,856㎡が復興関連の調査となっている。試掘調査のみで終えた調査は9件1,471㎡のうち5件571㎡が復興関連であった。

調査は順調に進んでおり、それは宮古市教育委員会文化課が市民への周知活動を粘り強く行ったことに加え、調査体制の充実を震災以前から図ってきたことが理由と考えられる。岩手県沿岸近隣市町村では埋蔵文化財の担当者が少なく、文化財保護への理解が少ない地域もあるという。

震災後、間断なく続く発掘調査を円滑に実施するため、役割分担を明確化し、調査役と調整役を分けたことで、調査の迅速化と調査員の体調管理を実現している点も宮古市の特徴である。消耗する割り込み仕事や深夜にまで及ぶ業務は無くすよう管理されており、心身の不調者を出さない点で、管理職の仕事が全うされている。職場の風通しも良く、意思疎通も日頃から図られており、仕事の蛸壺化も無い。

そのような状況の宮古市へ、私は小田原市から派遣され、2013年9月は宮古市教育委員会の職員の方と二人体制で縄文時代中期後半の大木8b式期の集落を調査している。石囲炉や貼り床のある住居が重複している。土器だけでなく、長さ50cm、径10cm程の石棒も出土した。重機の入ることのできない現場で、手掘りで地表から掘り下げ、遺構確認面に達した。

宮古市では縄文時代や奈良・平安時代の集落は高台の平坦面にあることが多い。津波との関連も指摘されるものの、869年に起きた平安時代の貞観地震の前後で集落の立地が大きく変わるわけではなく、出土資料からの慎重な判断が必要な状況にある。



宮古市田老集落の被災状況：(土屋氏撮影2013年夏)

2013 年度総会報告

さる 5 月 11 日（土）、2013 年度の神奈川県考古学会総会を神奈川県埋蔵文化財センター 3 階研修室にて開催しました。ここに総会の内容を報告します。

会則に則り、岡本孝之会長を議長に選出した後、以下の議事が総会にかけられました。

議事 1 2012 年度事業報告

議事 2 2012 年度収支決算報告

議事 3 2013 年度事業計画（案）

議事 4 2013 年度収支予算（案）

議事 1 2012 年度事業報告

（総務）2012 年度総会を、2012 年 5 月 12 日に神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。参加者 31 名。年度中は計 6 回の役員会及び幹事会を開催。

（会誌）『考古論叢神奈河』第 20 集を 2012 年 11 月に発行。

（連絡誌）『考古かながわ』第 48 号（2012 年 10 月）・第 49 号（2013 年 2 月）を発行。

（考古学講座）2013 年 3 月 5 日、横浜市歴史博物館講堂にて「文明開化の考古学」と題して開催。参加者は 67 名。記録集を 2013 年度に刊行予定。

（発表会）第 36 回神奈川県遺跡調査・研究発表会を 2012 年 11 月 17 日に横浜市歴史博物館講堂にて開催。参加者は 135 名。

（見学会）見学会を 3 回開催。第 1 回は、2012 年 7 月 22 日に実施、川崎市民ミュージアムにおいて同館企画展『郷土・川崎を掘る～川崎考古学研究所の活動の軌跡～展』を見学、参加者 26 名。第 2 回は、2013 年 1 月 14 日に実施、神奈川県立歴史博物館において『かながわの遺跡展「勝坂縄文展」』を見学、参加者 30 名。第 3 回は、「早春の鎌倉を歩く～鎌倉大仏・永福寺跡・最新発掘調査現場の見学」と題し、2013 年 2 月 23 日に鎌倉市内各所を巡りました。参加者は 33 名。延べ参加者数 99 名。

（ホームページの運営）2007 年度に開設したホームページ「神奈川県考古学会 考古かながわ」の管理・運営。

（20 周年記念事業積立）20 周年記念事業である 20 周年記念講演記録集の編集・刊行準備、および刊行物のデジタル化の準備を進行。

議事 2 2012 年度収支決算報告

2012 年度の収支決算が報告されました。また、収支決算について、2013 年 4 月 21 日に会計監査を実施。金銭出納簿、証拠書類等を精査し、預金残高と照合した結果、誤りなく適正に処理されていると監事より会計監査報告が行われ、収支決算報告とともに拍手をもって承認されました。

議事 3 2013 年度事業計画（案）

（総務）総会は 2013 年 5 月 11 日、神奈川県埋蔵文化財センターにて開催。総会後に、かながわ考古トピックスを開催。2 ヶ月に 1 回程度の間隔で役員会・幹事会を開催し、年 6 回程度の開催を予定。（会誌）「考古論叢神奈河」第 21 集を 2013 年度中に刊行予定。

（連絡誌）「考古かながわ」第 50 号を 10 月、第 51 号を 2 月頃発行予定。

（考古学講座）2014 年 1 ～ 3 月頃に開催予定。

（発表会）第 37 回神奈川県遺跡調査・研究発表会を 2013 年 10 月 12 日に開催予定。

（遺跡見学会）県内の発掘調査現場などにおいて年 3 回の開催予定。（ホームページの運営）「神奈川県考古学会 考古かながわ」の運営を継続、内容の一層の充実を図る。

（20 周年記念事業）20 周年記念事業記念集の刊行

議事 4 2013 年度収支予算案

収入の実態に見合った予算へと移行するため、各部会とも前年度より大きく出資額をおさえた予算額となっている。

議事 3 の事業計画案とともに 2013 年度の収支予算案が審議され、拍手により承認された。

任期満了に伴い、役員 8 名（天野賢一・押木弘己・川嶋実佳子・栗田一生・霜出俊浩・白勢順子・鈴木次郎・野口浩史：50 音順敬称略）と監事 1 名（曾根博明）が退任し、新たに監事候補として鈴木次郎氏、新役員候補として浅賀貴広・東真江・古田士俊一・砂田佳弘・千色出・横山諒人・脇幸生・渡辺昭一の各氏の紹介が行われ、拍手によって承認された。

その他

一、茅ヶ崎北稜高等学校建替えの問題について、会長からの経緯説明とともに 2013 年 3 月 14 日付けで「下寺尾官衙遺跡群の保存・整備・活用を求める要望書」（5 頁に全文掲載）が神奈川県考古学会会長名において、神奈川県知事・神奈川県議会議長・神奈川県教育委員会教育長宛（連名）に提出されたことが総務より報告された。

一、会員より、当会の会員誌である考古論叢神奈川 20 号の発行遅延に関わる質疑応答が 1 件、ホームページの運用と活用についての意見提案が 1 件あげられた。

会誌 20 号に関しては、編集作業自体の遅滞のほか、投稿論考の吟味に時間が割かれたことが説明され、改めて投稿規程と当会が発行する会誌の趣旨説明が行われた。ホームページについては近年のネット利用者増加の傾向を鑑み、会員間での意見交換・会員の声を反映させる仕組みを組み込む必要性が指摘され、現況体制ではイベント更新以上の運営管理が難しいと回答された。

午後はかながわ考古学トピック 2013 が開催され、考古論叢 20 号に論考を掲載した曾根博明氏と大倉潤氏を講師に迎え、2 本の発表が行われた。

2012年度収支決算報告

(収入の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	内容・内訳
会費	1,074,000	999,000	▲75,000	本年度会費 3,000 × 277名 = 831,000 次年度会費 3,000 × 5名 = 15,000 旧年度会費 3,000 × 51名 = 153,000
機関誌等売上げ	400,000	177,760	▲222,240	発表会要旨 73,800 考古論叢 28,000 講座要旨 75,920
雑収入	5,000	666	▲4,334	預金利子他 666
積立金取崩	650,000	0	▲650,000	ゆうちょ定額預金のまま 0
繰越金	1,570,148	1,570,148	0	1,570,148
合計	3,699,148	2,747,574	▲951,574	

(支出の部)

節	予算額	決算額	比較増減額	内容・内訳	決算額	予算額	※備考
事務局費	190,000	220,297	▲ 30,297	連絡費 85,205 旅費 29,220 会場借上費 15,150 事務費 66,622 行事開催費 210 会費振込手数料等 23,890	70,000	70,000	※2年度分の会費納付書を送付
会誌費	1,030,000	588,242	▲ 441,758	連絡費 1,080 事務費 2,412 印刷費 584,750 謝礼 0	10,000 10,000 1,000,000 10,000	1,000,000	※論叢20集分、21集分は繰り越し
連絡誌費	200,000	151,215	▲ 48,785	連絡費 0 事務費 4,040 印刷費 147,175	20,000 30,000 150,000	20,000	※連絡誌48・49号分(封入・発送費込)
発表会費	460,000	426,368	▲ 33,632	連絡費 4,460 事務費 18,510 行事開催費 37,578 印刷費 365,820 謝礼 0	25000 5000 60000 350000 20000	350000	※36回発表会要旨分(チラシ印刷・発送費込)
講座費	530,000	264,047	▲ 265,953	連絡費 560 事務費 33,882 行事開催費 18,925 印刷費 165,680 謝礼 45,000	10000 10000 100000 350000 60000	60000	※次年度に記録集を発行予定(チラシ印刷・発送費込) ※15,000円×講師3人
見学会費	110,000	76,635	▲ 33,365	連絡費 53,750 事務費 880 行事開催費 16,005 謝礼 6,000	70000 10000 20000 10000	70000	※連絡ハガキ代等 ※博物館入館料等
ホームページ運営費	60,000	43,160	▲ 16,800	事務費 5,360 サーバー使用料 37,800 謝礼 0	10000 40000 10000	40000	※ホームページ作成ソフト等 ※年間使用料金(2012.4～2013.3)
記念事業準備金	500,000	0	▲ 500,000	連絡費 0 会場借上費 0 事務費 0 印刷費 0	40000 10000 10000 440000	440000	※20周年記念事業記録集(未刊行)および刊行物のデジタル化(未執行)
予備費	619,148	0	▲ 619,148				
合計	3,699,148	1,769,964	▲ 1,929,184				

* 収入(2,747,574 円) — 支出(1,768,864 円) = 次年度繰越金(977,610 円)
 (※ 別途、記念事業積立金として 650,000 円)

2013 年度収支予算

(収入の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
会費	1,062,000	1,074,000	▲ 12,000	会費 3,000 × 354 名 = 1,062,000 (会員数359名、内5名は2012年度に納入済み)
機関誌等 売り上げ	300,000	400,000	▲ 100,000	発表会要旨・考古論叢・講座要旨等売り上げ
雑収入	5,000	5,000	0	預金利子/雑収入等
積立金 取崩	650,000	650,000	0	20周年記念事業費積立金より取り崩し
繰越金	977,610	1,570,148	▲ 592,538	
合計	2,994,610	3,699,148	▲ 704,538	

(支出の部)

節	予算額	前年度予算額	比較増減額	説明
事務局費	170,000	190,000	▲ 20,000	①連絡費 50,000 総会案内状、会費納入依頼等発送 ②事務費 40,000 会議資料作成、既刊行物の発送 ④行事開催費 5,000 総会・トピックス会場使用料 ⑥借上費 20,000 役員会等会場使用料 ⑦旅費 30,000 役員会等、会議交通費 ⑧手数料 25,000 会費等振込手数料
会誌費	1,070,000	1,030,000	40,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 5,000 会議資料作成 ③印刷費 1,060,000 考古論叢21集・22集の発行および発送
連絡誌費	160,000	200,000	▲ 40,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 5,000 会議資料作成 ③印刷費 150,000 連絡誌50号・51号の発行および発送
発表会費	410,000	460,000	▲ 50,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 5,000 会議資料作成 ③印刷費 350,000 第37回発表会要旨発行、 チラシ印刷および発送 ④行事開催費 35,000 会場博物館等の展示チケット購入 ⑤謝礼 15,000 外部講師依頼 15,000円×1人
講座費	490,000	530,000	▲ 40,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 5,000 会議資料作成 ③印刷費 400,000 講座要旨および前年度記録集の発行、 チラシ印刷および発送 ④行事開催費 35,000 会場博物館等の展示チケット購入 ⑤謝礼 45,000 外部講師依頼 15,000円×3人
見学会費	90,000	110,000	▲ 20,000	①連絡費 55,000 案内状等送付 ②事務費 5,000 会議資料作成 ④行事開催費 20,000 博物館入館料等 ⑤謝礼 10,000 協力者謝礼
ホーム ページ運 営費	50,000	60,000	▲ 10,000	②事務費 5,000 会議資料作成 ⑤謝礼 5,000 協力者謝礼 ⑥借上費 40,000 サーバー使用料
記念行事 準備金	450,000	500,000	▲ 50,000	①連絡費 5,000 事務連絡等の送付 ②事務費 5,000 会議資料作成 ③印刷費 440,000 2010年度発表会・講座記録集の刊行、 既刊行物のデジタル化
予備費	104,610	619,148	▲ 514,538	
合計	2,994,610	3,699,148	▲ 704,538	

(記念事業積立金)

収入の部

支出の部

2006年度	750,000	2006年度	0
2007年度	150,000	2007年度	0
2008年度	150,000	2008年度	0
2009年度	150,000	2009年度	0
2010年度	0	2010年度	550,000
2011年度	0	2011年度	0
2012年度	0	2012年度	0
2013年度	0	2013年度	650,000
合計	1,200,000	合計	1,200,000

2013年度積立金残金総額

0 円

茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群の保存・整備・活用を求める要望書（全文）

2013年3月14日

神奈川県知事 黒岩祐治 様
神奈川県議会議員 竹内英明 様
神奈川県教育委員会教育長 藤井良一 様

神奈川県考古学会
会長 岡本孝之

茅ヶ崎市下寺尾官衙遺跡群の保存・整備・活用を求める要望書

茅ヶ崎市下寺尾に所在する下寺尾官衙遺跡群は、国史跡に指定されるに相応しい神奈川県では初めての重要な遺跡です。奈良時代の役所と寺院がならびたち、河川交通、古代東海道などが交差する遺跡の地理的位置は古代相模国の歴史的環境を彷彿させます。神奈川県知事内山岩太郎の揮毫を得て建てられた「七堂伽藍碑」にみられますように、遺跡保存の願いが凝集した地域でもあります。

わたしたちの神奈川県考古学会では、2002年に高座郡衙遺跡（西方A遺跡）が発見された際に、多くの関係学会とともに遺跡の保存要望書を提出しました。

ところが、2月19日の新聞報道で、古代高座郡衙の発見された神奈川県立茅ヶ崎北陵高等学校の建替えが報じられました。詳細な内容は不明ですが、茅ヶ崎市のみならず、神奈川県の高座郡の貴重な資産である下寺尾官衙遺跡群の保存・活用に向けた取組みに大きな影響が生じるのではないかと危惧します。

神奈川県として今回報道された茅ヶ崎北陵高等学校の建替えについて、より詳細な情報を提示していただくとともに、当該計画がこれまで進めてきた保存・活用に向けた取組みに影響が及ぶ可能性がないのかどうか、具体的に説明していただくようお願いします。

下寺尾官衙遺跡群の確実な保存と整備、そして神奈川県民が活用できる場とするよう再度、要望し、誠意ある回答をお願いします。

神奈川県考古学会第3回見学会参加記

栗田 一生

今年2月23日(土)、神奈川県考古学会平成24年度第3回見学会「早春の鎌倉を歩く～鎌倉大仏・永福寺跡・最新発掘調査現場の見学～」に参加した。

午前の高徳院・鎌倉大仏では、高徳院住持で慶応義塾大学教授の佐藤孝雄先生から「鎌倉大仏と研究の“曼荼羅”」というテーマで講演をいただき、鎌倉大仏について過去・未来・自然・文化という異なる研究分野が連携してアプローチしていく重要性を知ることができた。



平成24年度第3回見学会記念集合写真：鎌倉大仏前にて

午後の川越重頼邸跡発掘調査現場では、調査担当者の斉木秀雄さんのお話を伺いつつ、まさに数百年ぶりに地上に姿を現したばかりの遺構・遺物を生で見ることができ感動した。永福寺跡では、現在史跡整備工事中で完成間近の基壇・礎石を見学し、栄華を誇った永福寺の往時を偲ぶことができた。

また、見学場所への移動は主に徒歩だったこともあり、普段あまり鎌倉と縁のない自分にとって、鎌倉の様子を直に感じられたことも、非常に有意義であった。



川越重頼邸跡発掘調査現場で出土遺物の説明を受ける参加者



平成25年度第1回見学会記念集合写真：江戸東京博物館にて

平成25年度第1回見学会

7月13日の見学会に参加して

井出 智之

宮内庁と文化庁の主催で行われている「発掘された日本列島2013」を見学しました。

当日は薄曇りで、汗ばむ気温のなか、会場である東京都江戸東京博物館のエントランス前に集合。参加者の記念写真を撮影後展示会場へ移動しました。

午後1時から宮内庁職員による、陵墓出土の遺物説明、1時20分から文化庁職員による展示解説がありました。

御廟山古墳出土のドールハウスを連想させる囲・家形埴輪の精巧さに驚き、犬山天神山古墳の刃物傷のある埋葬骨では、世代交代時に負わされる傷を克服することで呪術的な力の強いことを証するとの説明に意図的な傷＝戦いと単純に捉えてしまうことを反省。

下佐野遺跡出土の人形は大きく、延喜式の規定では貴族による祭祀との説明に、地方は中央の規定を遵守するのかと疑問を持ちました。

復興支援による発掘調査の成果では、地域の人たちが調査に参加していること等が紹介され、文化財保護の基本的な取り組みにあらためて感じ入るなど、考古学とは何かを再度考え直す機会となりました。

末筆になりましたが、見学会担当の方々お疲れ様でした。

第37回 神奈川県考古学会 遺跡調査・研究発表会のお知らせ

第37回神奈川県考古学会遺跡調査・研究発表会を、昨年に引き続き横浜市歴史博物館のご協力を得て開催いたします。今回は、県内で調査された縄文時代から中世までの9遺跡を発表します。

特に城郭・寺院・屋敷など中世遺跡の調査成果を「小特集」として紹介します。

皆様、ふるってご参加ください。

日 時：平成25年10月12日（土）
会 場：横浜市歴史博物館 講堂
(横浜市営地下鉄「センター北」駅下車 徒歩約10分)

入場無料 発表要旨は実費にて頒布。

主 催：神奈川県考古学会
共 催：横浜市歴史博物館
後 援：神奈川県教育委員会・横浜市教育委員会
・川崎市教育委員会・相模原市教育委員会
・公益財団法人かながわ考古学財団

同時開催：図書交換会

会場：横浜市歴史博物館 研修室

内 容：

9:40～ 受付

10:00 開会の挨拶

10:10～ 調査・研究発表

1.(10:10～10:40) 横浜市 新羽浅間神社遺跡〔弥生時代前期末～中期初頭の土器棺墓〕
(公財) かながわ考古学財団 小西絵美氏

2.(10:40～11:10) 横浜市 星川桜ヶ丘遺跡〔帷子川流域の古墳と集落〕
(株) 盤古堂 滝澤 亮氏

11:10～11:20 休憩

3.(11:20～11:50) 横浜市 馬場綿内谷遺跡〔縄文・古墳時代の集落〕
(公財) かながわ考古学財団 小川岳人氏

11:50～13:10 昼休み

4.(13:10～13:40) 茅ヶ崎市 本村居村B遺跡〔平安時代の水田跡と出土木簡〕
神奈川県考古学会 押木弘己氏

13:40～13:50 休憩

5.(13:50～14:20) 伊勢原市 宝城坊本堂下(日向薬師)〔現本堂の前身建物、造成構造の確認調査〕
伊勢原市教育委員会 井出智之氏

6.(14:20～14:50) 相模原市 津久井城跡 荒久地区〔山城の外郭部の調査〕
相模原市教育委員会 鯉淵義紀氏

14:50～15:00 休憩

7.(15:00～15:30) 伊勢原市 子易大坪遺跡〔中世屋敷跡の調査〕
(公財) かながわ考古学財団 井辺一徳氏

8.(15:30～16:00) 小田原市 史跡小田原城跡御用米曲輪〔戦国期小田原城の庭と礎石建物の発見〕
小田原市 佐々木健策氏

9.(16:00～16:30) 相模原市 津久井城跡 城坂地区〔市民ボランティアによる中世城館の調査〕
相模原市教育委員会 中川真人氏

16:30 閉会の挨拶

16:35 閉会

第37回 神奈川県遺跡調査・研究発表会

2013年10月12日(土) 10:00～

会場:横浜市歴史博物館
(横浜市都心区中川中央1-18-1
横浜市営地下鉄「センター北」駅より徒歩5分)

入場無料 ※発表要旨は実費にて頒布
かながわでも参加できます。

図書交換会も同時開催

中世小特集 ▲

10:10～10:40 横浜市 新羽浅間神社遺跡
弥生時代前期末～中期初頭の土器棺墓
(公財) かながわ考古学財団 小西絵美氏

10:40～11:10 横浜市 星川桜ヶ丘遺跡
帷子川流域の古墳と集落
(株) 盤古堂 滝澤 亮氏

11:20～11:50 横浜市 馬場綿内谷遺跡
縄文・古墳時代の集落
(公財) かながわ考古学財団 小川岳人氏

11:50～13:10 昼休み

13:10～13:40 茅ヶ崎市 本村居村B遺跡
平安時代の水田跡と出土木簡
神奈川県考古学会 押木弘己氏

13:50～14:20 伊勢原市 宝城坊本堂下(日向薬師)
現本堂の前身建物・造成構造の確認調査
伊勢原市教育委員会 井出智之氏

14:20～14:50 相模原市 津久井城跡 荒久地区
山城の外郭部の調査
相模原市教育委員会 鯉淵義紀氏

15:00～15:30 伊勢原市 子易大坪遺跡
中世屋敷跡の調査
(公財) かながわ考古学財団 井辺一徳氏

15:30～16:00 小田原市 史跡 小田原城跡御用米曲輪
戦国期小田原城の庭と礎石建物の発見
小田原市教育委員会 佐々木健策氏

16:00～16:30 相模原市 津久井城跡 城坂地区
市民ボランティアによる中世城館の調査
相模原市教育委員会 中川真人氏

主催 神奈川県考古学会
共催 横浜市歴史博物館

後援 神奈川県教育委員会 横浜市教育委員会
川崎市教育委員会 相模原市教育委員会
(公財) かながわ考古学財団

神奈川県考古学会
http://www.kokokushigakukai.net/

2013 年度 10 月以降の県内催し物案内

名称	開催時期	時間	場所	問合せ先
企画展「東海道藤沢宿―大地と紙の記憶から―」	9/3～10/20	10時～19時 ※日曜は～17時	藤沢市民ギャラリー常設展示室	0466(27)0101
歴史フォーラム「発掘された東海道藤沢宿」	10月6日	10時～16時半	藤沢市労働会館 1階ホール	0466(27)0102
まんだら堂やぐら群臨時公開（鎌倉市）	10/26～12/15の木・土・日・祝日	10時～16時	国指定史跡名越切通 ※荒天の場合公開中止・車での上場不可	046(872)8153 ※平日のみ
(公財)かながわ考古学財団20周年記念事業公開セミナー「神奈川の発掘調査成果にみる考古学研究の転換点」	10月27日	10時～16時半	神奈川県民共済みらいホール ※事前申込不要、入場無料	045(261)8162
秋・冬の石器作り教室 ☆	①10/27、②2/23	9時半～12時	横浜市三股台考古館 ※費用300円、申込：往復葉書①9/1～10/18、②1/14～2/15、対象：小学生以上各回15人	045(761)4571
発掘調査・新指定文化財速報展(横須賀市)	10/28～11/1	9時～17時	横須賀市役所1号館1階	046(822)8484
秦野の原像Ⅷ―寺山遺跡(仮題)	11/1～12/15	9時～16時半	秦野市桜土手古墳展示館	0463(87)5542
((公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター 講座)平成25年度「横浜の考古学」他地方との交流・交易 ★	11月8日	13時半～16時 ※開場は13時	横浜市歴史博物館講堂 ※資料代1000円、申込：往復葉書(11/1必着)、対象：2日間とも参加できる方限定定員150名	045(890)1155
勝坂縄文まつり(相模原市)	11月3日	10時～13時	史跡勝坂遺跡公園	042(769)8371
最新出土品展2013(小田原市)	11/9～11/24	9時～17時	小田原市かもめ図書館集会所	0465(33)1715
((公財)かながわ考古学財団20周年記念事業シンポジウム「海浜型前方後円墳の時代」	11月16日	10時～16時半	神奈川県民共済みらいホール ※事前申込不要、入場無料	045(252)8689
平成25年度小田原市遺跡調査発表会	11月24日	10時～16時40分	小田原市かもめ図書館視聴覚ホール	0465(33)1715
茅ヶ崎市遺跡調査展示会	11/28～12/4 ※12/2は休	10時～18時 ※最終日は15時	茅ヶ崎市市民文化会館展示室	0467(85)9177
遺跡講演会「千代古代寺院出土の木簡を考える」(小田原市)	11月30日	12時半～16時半 ※開場は12時	小田原市かもめ図書館視聴覚ホール	0465(33)1715
第24回茅ヶ崎市遺跡調査発表会	12月1日	12時半～16時半 ※開場は12時	茅ヶ崎市市民文化会館小ホール	0467(85)9177
(公財)かながわ考古学財団 平成25年度発掘調査成果発表・成果展示会	12/4～12/8 ※成果発表は12/8	9時15分～17時	横浜市栄区民文化センターリリス	045(252)8689
平成25年度「横浜の遺跡展」古代都筑郡の考古学―北川谷遺跡群から「郷」を考える―	12/7～1/13 ※展示解説12/14、1/12	9時～17時 ※展示解説は両日11時、12/14の14時の3回	横浜市歴史博物館企画展示室 ※展示解説は無料、先着30名で毎回40分程度	045(890)1155
冬の市内遺跡探訪「縄文から弥生へ―北部の遺跡を訪ねる―」(茅ヶ崎市)	12月7日	10時～12時 (予定)	文教大学・芹沢配水池周辺 ※申込：電話(茅ヶ崎市文化資料館)で先着順定員30名、11/15(金)10時から	0467(85)1733
講座「勝坂有鹿谷祭祀遺物について(仮)」(相模原市)	12月8日	未定	史跡勝坂遺跡公園	042(769)8372
第14回藤沢市遺跡調査速報展	12/10～1/26	10時～19時 ※日曜は～17時	藤沢市民ギャラリー常設展示室	0466(25)1111
冬の勾玉作り教室 ☆	12月15日	9時半～12時	横浜市三股台考古館 ※費用300円、申込：往復葉書(11/1～12/7)、対象：小学生以上で定員20人	045(761)4571
講演会「古代武蔵・相模の考古学―拠点集落と地域支配―」★	1月12日	13時～16時 ※開場は12時半	横浜市歴史博物館講堂 ※資料代500円、申込：往復葉書(12/20必着、150名)	045(890)1155
平成25年度かながわの遺跡展	1/11～2/23	9時半～17時	神奈川県立歴史博物館	045(201)0926
冬の土器作り教室(全4回) ☆	①1/13 13時～16時半、②1/19 9時半～16時半、③1/26 13時～15時、④3/2 9時半～15時		横浜市三股台考古館 ※費用2000円＋粘土代(300円/kg、3kgで20cm高さの土器可)、申込：往復葉書※高校生以上で全4回参加可能な方対象で定員14人、応募者多数は抽選	045(761)4571
企画展「相模原市の遺跡2014 さがみはら発掘最新情報」	3/21～5/5	9時半～17時	相模原市立博物館	042(750)8030
★(公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター主催の催しです。講演会・講座のお申込みは、いずれも往復葉書に講演会名または講座名を明記の上、住所・氏名(ふりがな)・電話番号を記入の上、〒247-0024 横浜市栄区野七里2-3-1 (公財)横浜市ふるさと歴史財団埋蔵文化財センター宛に送ってください。				
☆横浜市三股台考古館の催しです。お申込みはいずれも往復葉書に①氏名②住所③電話番号④申込者の年齢⑤行事名(土器作りは希望粘土量)⑥催しを知ったきっかけを記入の上、〒235-0021 横浜市磯子区間4-11-22 三股台考古館宛に送付、詳細はホームページをごらんください。http://www.rekihaku.city.yokohama.jp/shisetsu/sandd/				

会員のみなさまへのお知らせ

新規役員体制

2013 年度より新規役員を加え、岡本会長中村副会長のもと、新たな体制で活動を行っています！担当業務は以下の通りです。【総務】山田・脇・東【会誌】永田・渡邊・砂田【講座】井出・中三川・五十嵐・宇都・横山【発表会】橋口・鯉淵・浅賀・渡辺【見学会】押方・西川・千色【連絡誌】桑原・高橋・古田土

ホームページについて

現在、神奈川県考古学会のホームページのリニューアル準備中です。閲覧可能な頁に限られるなどご不便をおかけしておりますが、ご了承ください。

49 号セピア考古学雑誌誤字訂正

前号掲載のセピア考古学雑誌で誤字脱字がありました。ご確認願います。お話し戴きました寺田先生、会員のみなさまには大変失礼をいたしました。

- 2 頁左 2 行 誤：招待状→正：紹介状
- 4 頁右 24 行 誤：町と機能→正：町という機能

編集後記

連絡紙も節目となる第 50 号を迎えました。巻頭言には、第 47 号に引き続き東日本大震災の被災地を取り上げ、宮古市に派遣されている土屋さんに埋蔵文化財の調査について紹介していただきました。震災から既に 2 年半が過ぎましたが、復興はまだ途上にあります。これからも被災地の様子を皆さんにお伝えできればと考えています。

また、今年度の役員交代により、役員の平均年齢がぐっと下がりました。新たな体制でより一層の活動の充実に取り組みますので、どうぞご期待ください。

考古かながわ 第 50 号

発 行 神奈川県考古学会
発行日 2013 年 10 月 1 日
編 集 連絡誌部会：桑原・高橋・古田土
印 刷 (有) 湘南グッド
発行者 神奈川県考古学会 会長 岡本孝之
郵便振替 00240-9-71208
E-mail soumu@koukokanagawa.net
U R L http://www.koukokanagawa.net